

聞き屋

nagi

また電車が到着したのだろう。

大勢の人が、足早にやって行き通り過ぎてゆく。

僕らは彼らより低い視線から声をかける。

「お疲れ様でした～」

「お帰りなさい～」

道行く人たちは、ちらりところらを見、通り過ぎて行く。

足元をゆるめることもせずに。

ある人は携帯の画面から目を離すことなく、

またある人は敢えて見ないようにして。

時々行ったり来たりを繰り返す人がいる。

その大半の人も、やがては通り過ぎてゆくだけけれど。

いわゆる地べたにすわり、そこから道行く人を見るのは、

僕らに、また違った視線を考えさせてくれた。

「もし良かったら、話を聞きますよ？」

ほとんどの人が通り過ぎて行く中、

意外と聞いてもらいたがっている人が、いることも知る。

だから僕らはあるんじゃないかと思う。

嬉しい話は一緒に喜び、

哀しい話には泣き、哀しみ。

愚痴には適度に相槌を打つ。

僕らは一人一人の人生というものを、多少なりとも実感する。

毎週金曜日。

時間は夕方6時30分くらいから。

誰も僕らの視線にたたないときは10時から11時。早いときは8時にはお開き。

聞いて欲しい方がいれば、最長は翌朝5時まで。

僕らは駅前の道にすわっている。

あなたの話を聞くために。

「お疲れ様で～す」

「お疲れ様でした～」

いつものように俺らは坐り込み、通り過ぎて行く人たちに声をかける。

始めたばかりの時は――少なくとも俺は、ノリでということもあったし、

見ず知らずの俺らに聞いてもらいたい奴っているのかと半信半疑な部分があったが、

予想に反して、立ち止まっていく人が増えた気がする。

常連客もできた。

女子高生だったり、素性不明なままの人もいる。

お水のお姉さま方も、たまにいらっしゃる。

曜日が良くない、変えろと要望付で。

週末は、客が多くそんな週末に行けるかというわけだ。

俺らのメンバーは、金曜日の夕方から集まり駅前に腰をおろす。

人数はそのときによって違う。

俺は、自分でも意外なのだが出席率は良いほうだ。

思っていた以上にハマリ、気付くと足が向いている。

自分でいうのもなんだが、俺はそこそこ人気があるほうで、顔見知りが増えた。

軽い会話を楽しみ、時にはその中の子と楽しんでみたりする。

軽いノリに軽い関係。

俺にはほぼそれが求められている。

だから、ふっとリクを見ると奴の前に来る聞いて欲しい人たちの幅の広さに驚かされる。

老若男女、喜怒哀楽問わず、リクは良い聞き手で、立ち去る人の表情を、つい俺の所に来る奴らと比べてしまう。

ヨリもよく聞いていると思うが、ヨリはリクと違い感情移入をしすぎちまっている。

1週間、ひどいときはそれ以上引きずって、ズタボロ状態になっているときもある。

でも、ヨリはやってくる。

リクにこのまま来させて平気だと思うか、と訊くと

「僕はリーダーじゃないから。リーダーが何も言わず、本人が来たがっているなら良いんじゃない？」

と言う。

そんなヨリの話も、リクは時にかなりの時間を割いて聞いてやっている。

感情移入をし、増幅され情緒不安定なヨリの話でさえ、何事もないように聞くリクを、

俺は改めてマジマジと見てしまったことがある。

思ったことは、瞳が深いという表現があてはまるということで、

思ってその言葉を反芻し、妙に納得した。

リクの瞳は深い。